

技術士 2 次試験に合格して



田邊 孝行

(たなべ たかゆき)

勤務先

岩田地崎建設 株式会社

土木工務部

〒060-8630 札幌市中央区北 2 条東 17 丁目 2 番地

TEL 011-221-2221 FAX 011-221-5432

E-mail t.tanabe@iwata-gr.co.jp

■ 専門：建設部門(施工計画、施工設備及び積算)

1. 自己紹介

私は 1971 年(昭和 46 年)に、豊かな自然に囲まれた蘭越町で生まれました。幼い頃から兼業農家の両親のもとで、土にまみれながら農業土木を体験し、次第に土木に興味をもつようになりました。

高校卒業後、室蘭工業大学に進学し実体験を具体化すべく土木の基礎知識を学びました。

その後、平成 6 年に株式会社地崎工業に入社し、平成 19 年岩田建設と合併し現在に至ります。今までの経歴は、橋梁工事の施工計画や施工管理が多く、現在は総合評価の技術提案を主業務としております。

2. 技術士試験について

・受験から 2 次試験までの道のり

入社後は、ゼネコンで必須資格となる土木施工管理技士や造園・建築施工管理技士を取得するため、猛勉強しました。その後、技術士の資格を意識するようになりましたが、この当時はどう勉強すればいいのかわからず、受験をためらっていました。しかし、平成 15 年に転機が訪れ、改正となった試験制度で一次試験を突破し、技術士補となりました。

技術士補取得から数年間は、業務多忙に託けて社内技術士からの受験の勧めを拒否し続けていましたが、平成 19 年頃社内施工部署から技術士取得者が始まったことが、受験を決意するきっかけとなりました。しかし、何となく受験し不合格だったにもかかわらず、妙な手応えを感じ試験を楽観視してしまい 4 年間もお休みしてしまいました。再度試験意欲を掻き立ててくれたのは、平成 25 年の試験制度改正で、この年から 3 回目の受験でようやく合格することができました。

・2 次試験(筆記)

筆記試験は、択一問題を最重要科目として勉強しました。過去問をベースに、SUKIYAKI 塾の 100

本ノックを併用して頭に詰め込みました。

専門問題は、今まで蓄積した基礎知識を間違いがなく・わかりやすい表現で記載することを心掛けました。

課題解決問題は、過去問の解答例をベースに、そして過度に知識をアピールすることなく、課題を解決する手順を明確に表現する文章構成を心掛けました。

・2 次試験(口頭)

試験前に社内技術士の方々に、想定問題例や模擬面接など々とサポートして頂きました。このサポートのおかげで、本番は冷静に対応できたと思っています。

試験では、経歴・業務内容の詳細(小論文)及び技術者倫理・技術士制度が問われます。多分、実体験している経歴・小論文については、質問をしっかりと聞き冷静になれば、受け答えできると思います。しかし、技術者倫理・技術士制度は、暗記しなければ答えることができませんので、しっかりと暗記することをお勧めします。

3. 今後に向けて

執筆している現在、熊本地震で甚大な被害が出ています。また、過去に類をみない異常気象に伴う天災により多くの方々が犠牲になっています。まだ技術士の駆け出しですが、幅広い視点で冷静な判断を行い社会資本に貢献できる「本物の技術士」になれるよう、自己研鑽に努めます。また、技術士が一人でも増えるように自分が受けたようなサポートを後輩にも行っていきたくてと思っています。

最後になりますが、熊本地震被災地の早期復興を祈念するとともに、このような機会を与えて頂いたことを心からお礼申し上げます。

これからも、よろしくお願い致します。

技術士 2 次試験に合格して



東 秀樹

(あずま ひでし)

勤務先

ほくでんエコエナジー株式会社

発電事業部 発電グループ

〒060-0042 札幌市中央区大通西 1 丁目 14 番地 2

TEL (011) 221-7798 FAX (011) 221-7418

E-mail h-azuma@hokuden-eco-energy.co.jp

■ 専門：電気電子部門(発送配変電)

【自己紹介】

私は 1959 年に北海道富良野市(当時は富良野町)に生まれ、小学校からは札幌で育ち、室蘭工業大学を卒業して、1981 年に北海道電力に入社しました。

それから 35 年目の 2016 年に技術士 2 次試験に合格しました。

今まで、引越を多数経験しました。生家となる富良野から、7 歳で札幌へ引越し 1 回目、その後、自宅建て替えて 2 回目、大学生活で 3 回目、北海道電力に入社して名寄を皮切りに計 14 回、そして現在の会社に入り札幌配属となり、18 回目の引越を経験しました。

引越を繰り返すうちに荷物を必要以上に増やさないことを考えながら生活するようになりました。

良い仕事を行うにも、日頃から情報、データの整理を怠らず、必要な時に要領よく情報、データを引き出せる態勢を確保するのが大事だと思います。

【受験動機】

電力会社では事業に関連する資格取得を推奨しており、所属する部門としては、電気主任技術者を取得することを一番に推奨していました。

私は、管理職になってからは、部下の資格取得を奨励する立場となりましたが、口ばかりの要請よりも、自ら範を示すことが効果的と思い、資格取得にチャレンジすることとしました。

電気主任技術者は既に取得していたので、技術屋の究極的資格である技術士にチャレンジすることとしました。

1 次試験(技術士補)は 1 回で合格しましたが、2

次試験はストレートでは受からず、途中挫折し休んだ年も挟みながら、4 回目で合格しました。

【試験対策】

電気電子部門の発送配変電分野で資格を得たのですが、私の場合は、電力会社での実務経験が大きく貢献したと思います。

1 次試験や、2 次試験の選択問題は、10 力年分程度、過去の問題を繰り返し覚えることで、専門の分野以外の電子応用や、電気設備の分野でも知識の幅が広がり、合格に繋がったのだと思います。

記述式問題は、現場管理職なら業務上経験する内容が問題となっていた印象で、いわゆる年の効で、頭の固い 57 歳の私でも回答できたものと思います。

不合格だった年と比較して思い返すと、回答用紙の余白を残さず沢山書くことよりも、要点を順序立てて回答することに重点を置き、余白が多くなって心配しないことが重要だったと感じています。

【今後に向けて】

ちょうど北海道電力を退職し、ほくでんエコエナジーに再就職するタイミングと重なりましたが、今の会社は水力発電所の保守・運用と新規発電所の調査・設計を実施する業務内容で、すぐに資格を活用する訳ではありませんが、電力システム改革も進展する時代になった中、新たな刺激を求めイベント等に参加しながら、社会の発展に貢献する行動につなげていきたいと思っています。

最後に、励まし応援して頂いた先輩方と同僚にお礼申し上げ、結びといたします。

今後とも宜しくお願いいたします。

技術士 2 次試験に合格して



茶木 正幸

(ちやき まさゆき)

勤務先

石狩市

建設水道部建設指導課

〒061-3292 石狩市花川北 6 条 1 丁目 30 番地 2

TEL 0133-72-3141 FAX 0133-75-2274

E-mail masayuki.chaki@city.ishikari.hokkaido.jp

■ 専門：建設部門(施工計画・施工設備及び積算)

1 自己紹介

私は北海道工業大学(現 北海道科学大学)を卒業し、ゼネコンで 3 年、石狩市建設水道部建設指導課(旧：石狩町建設部建築課)で 20 年、計 23 年の経験があります。年齢は 40 台後半です。

ゼネコン時代は東京都でごみ処理施設等の現場監督を、現在の職場である石狩市役所では、1 級建築士の資格を取得し、建築士による設計・工事監理が必要な施設整備などで、土木や水道担当課等と協同で、設計・工事の業務を担当しました。営繕以外にも、石狩市営住宅の管理や建築確認申請の審査の業務を担当することもある建築系技術職員です。

2 受験動機

石狩市役所では、技術士に対して給与アップや資格手当などの金銭的なメリットはありません。また、石狩市役所には技術士がいないので、受験を勧められることもありませんでした。

以下、私の受験動機を述べます。

(1) 市民からの信頼を得たい

公務員として専門知識や応用能力を身につけ、社会インフラを供給し、また市民への説明責任を果たすことで市民から信頼される仕事をしたいとおもっていました。

(2) 後輩たちの挑戦

職場の後輩は、建築士などの資格取得にむけて努力していました。まだまだ若い者たちに負ける訳にはいかないとおもい、新たな資格を取得することを決意しました。

(3) 自分の仕事の質を変えたい

受験を決意するまで、技術士を知りませんでした。たまたま名刺交換をした方が技術士で、調べてみると科学技術で最も権威のある資格であることが分かりました。この資格を取れば自分の仕事の質も変わるのではないかと期待しました。

3 2 次試験について

筆記試験は、職場に教えを乞う先輩がいないため、一人本屋で参考書を買ひあさり、さらに通信講座を受けました。平日は早起きし、休日は図書館に通いました。やはり簡単な試験ではなく、毎年不合格の通知が届いていました。しかし、3 度目で奇跡的に合格することができました。口答試験では、もう筆記試験は受けたくない！という強い決意で臨み、初受験で合格することができました。

4 おわりに

私はまだまだ未熟者で、何年もかかって合格したのであまり偉そうなことは言えませんが、今後の抱負を述べ結びとさせていただきます。

(1) 社会の要請に応える

市の財政状況は厳しいですが、これまで得た知識や経験を生かし、市民からの期待に添えるようなインフラの整備を行っていきます。

今後の社会インフラは、新規整備よりも既存メンテナンスが中心となり、社会からの技術士への要請はますます高まってきます。コストを抑え、かつ市民合意を得ながらインフラを整備していかなければなりません。

(2) あこがれの先輩となる

後輩たちの良い手本となるように、今後も技術の維持向上に努めていきます。そのためには公務員にあぐらをかかず、公務員以外にも技術士会の活動などを通じ、先輩技術士の方々と幅広い人脈形成をはかり自らの視野も広げていきたいと考えています。

(3) 誠実に仕事をする

試験に合格し、急に仕事ができるようにはなるものではありません。技術士の名に恥じぬよう、自分に与えられた仕事を誠実にやっていきます。

以上

技術士 2 次試験に合格して



笠井 秀男

(かさい ひでお)

勤務先

北海道電力 株式会社

総合研究所火力・土木技術グループ

〒067-0033 江別市対雁 2-1

TEL 011-385-6324 FAX 011-385-7553

E-mail h1993100@epmail.hepco.co.jp

■ 専門：建設部門(電力土木)

1. 自己紹介

私は昭和 43 年に札幌で生まれ、小学 4 年で函館に転校しました。その際に札幌とは異なる函館の街並みや路面電車に興味を持ち、その影響で高校時代の進路を決める時期には、都市計画や交通に関係する土木分野の道に進むことを考えていました。

大学は京都大学の土木系学科に入学し、専門課程に入ってから都市施設の耐震に関する研究室で、ライフラインの地震災害に対するソフト的対策の研究をテーマとし、大学院の修士論文を作成しました。

就職はライフライン繋がりで、平成 5 年に北海道電力に入社し、土木部に配属となりました。その後は水力発電所の建設所、国土交通省への出向などを経て、現在は総合研究所で土木設備の点検装置の開発や、水理模型実験等による水理検討を担当しています。電力の土木分野の仕事は発電所土木設備の建設・保守ということで、高校時代に思い描いていた夢とは少し違いましたが、スケールが大きく、地元に貢献できる仕事ということでやりがいがあります。

2. 試験について

技術士(建設部門)については、土木分野では最高峰の資格ということで、若い時からなんとなく憧れがありました。

初めて二次試験を受けたのは平成 18 年で、当時は国土交通省に出向していました。試験勉強は途中で順調でしたが、試験日の 2 週間前から急に帰りが午前 4 ～ 5 時になるほどの激務が入り、試験勉強どころではなくなりました。それでも試験当日は諦めずに会場に行き試験を受け、結果は不合格だったものの 3 科目中、当時は難関とされていた経験論文を含む 2 科目が A 判定とかなり惜しかったのを覚えています。この時の微かな自信を胸に翌年も受験しましたが、試験方法が改正となり、前年の試験

対策が通用せず不合格となりました。

その後はしばらく受験から遠ざかり、平成 25 年に受験を再開しました。その年はまた試験方法が改正となり、変化に対応する適応力に欠けるせいか、記述式が 2 科目とも C 判定と散々な出来でした。翌平成 26 年は前年の反省から記述式はできたものの、今度は択一式がクリアせず不合格となりました。

それでも諦めの悪い性格から、翌平成 27 年に 5 回目の受験をしました。択一式を自分の勘に頼っていたことを反省し、択一式対策用の参考書を購入してじっくり勉強したこともあり、ようやく択一式と記述式両方とも合格ラインをクリアし、筆記試験に合格することができました。

口頭試験については、建設部門(電力土木)の受験者は例年 4 割ほど不合格になっており、試験日まで不安な日々を送りましたが、模擬面接は試験の数日前に妻に予想 QA のレジメを渡して質問をお願いした程度で済みました。試験当日は試験官に終始穏やかな雰囲気ですべて接して頂きました。自分の工夫や成果など強調すべきところはするようにして、それ以外は変に構えず自然体で臨んだのがよかったのか、ようやく合格することができました。

3. 今後について

技術士に合格したことで、ある程度の自信にはなったものの、自分が専門分野で何ができるのかを改めて考えてみると、浅い知識しかないことを痛感します。一方、電力業界は自由化により競争時代に突入し、発送電分離や新エネルギーの導入など課題が山積しています。今後は電力業界の変化に対応できる適応力の高い技術者を目指して、一層の自己研鑽に励んでいきたいと考えています。

最後に技術士合格に向けて応援頂いた方々やお世話になった方々に改めてお礼申し上げます。

技術士 2 次試験に合格して



塚越 理陽

(つかごし みちあき)

勤務先

株式会社 日立ビルシステム

グローバル昇降機事業部 施工統括本部 北海昇降機部 施工管理グループ

〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 4 丁目 1 番地 1

TEL 011-221-4078 FAX 011-221-4521

■ 専門：機械部門(材料力学)

1. 自己紹介

4/6 の北海道本部総会にて投稿依頼のお話を頂き、自分のことを紹介して頂けるということで是非と引き受けさせて頂きました。

生まれは茨城県下妻市で、技術士を知ったのは中学生で、学研の雑誌『中学生コース』からでした。模型が好きで、当時 TV では F1 やロードレースが大々的に放送されており、この資格に興味を持つのに時間は掛かりませんでした。学生時代は千葉県津田沼市にある千葉工業大学で機械工学を学びました。その後、日立製作所水戸工場の生産技術部門で主に溶接・接合に関する仕事に従事し、2013 年に北海道へ異動となりました。異動後に技術士の方々とお会いする機会があり、1 次試験合格者であれば技術士になることを勧めて頂きました。そこで入社後に先輩から受け継いだ溶接接合技術で受験を決意しました。

2. 技術士筆記試験について

技術士試験は 2 回目の挑戦で合格することができました。先輩技術士体験談から勉強方法が重要と助言を頂き、ただ過去問を解くのではなく、以下の様なやり方へと見直しをしました。

(1) 自分の学習方法の早期確立

苦手論文を書上げる手法の確立、択一問題対策

(2) 出題傾向把握

トレンドと出題傾向の想定

(3) 勉強時間確保と継続

日常業務と生活内での時間確保と継続

この中で(3)については以下の工夫を行いました。

- ①継続的に学習を続けること。
- ②隙間時間を活用すること。
- ③隙間時間とまとまった時間の勉強法確立

継続方法は新聞で紹介されていた高校受験合格後のご褒美棚上げ方法を真似ました。1 冊のノートに、合格したらやりたいことを列挙しました。受験勉強中にも遊びたい欲求がありましたが、その時はノートに記載して合格後に楽しむこととし棚上げしました。隙間時間は貴重な学習時間で、早朝、通勤時間、昼休み、帰宅時間等が該当します。隙あればノートを開き、メモを取り、論文の構成、ネタを書き溜めました。論文の書き方は NHK 教育『受験の花道』で紹介された方法を参考にして、まとまった時間で仕上げては読み直し、再度書き直すことを繰り返しました。こうすることで 1 日の時間をフルに活用して受験対策を行い、筆記試験合格に繋がりました。

3. 口頭試験について

筆記試験から口頭試験まで、1ヶ月しかありませんでした。社内で先輩技術士達による模擬面接試験を実施して頂きまして、回数をこなしつつ修正し、本試験に挑みました。試験では願書に記載された業務経歴について主に聞かれ、詳細説明、その業務による効果(良・安・速)、社外に対する発表や特許、また技術者倫理が問われました。試験室にはホワイトボードが設置されており戸惑いましたが、試験官の先生方に理解して頂ける様に図を描きながら説明し、工夫、効果、苦労した点を伝えました。

4. 今後について

今回技術士を取得したことで、色々な会合に参加できる機会を頂きました。会合では異分野で活躍される技術士の方々と会うことができ、今までに無い刺激を受けることができました。今後は更に多角的な見地を持ち、専門分野の強みを活かしつつ、先輩達から受け継いだ技術を後輩達へ繋いでゆきたいと考えています。

技術士 2 次試験に合格して



野呂 美紗子

(のろ みさこ)

勤務先

一般社団法人 北海道開発技術センター

調査研究部

〒001-0011 札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2 番 17 号セントラル 札幌北ビル 3 階

TEL 011-738-3363 FAX 011-738-1889

E-mail noro@decnet.or.jp

■ 専門：建設部門(道路)

1. 自己紹介

私は紋別市で生まれ、高校まで札幌市で過ごした後、帯広畜産大学に進学し、修士(農学)を取得しました。その後、現在勤務している会社に入社し、工学的知見の必要性を感じ、勤務の傍ら北海道大学大学院工学研究科の博士課程に学ばせていただき、博士(工学)を取得しました。

皆さんは「ロードキル」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。動物が車と衝突し、死亡した動物のことをロードキルと呼びます。日本では、衝突事故自体を指してロードキルと呼ぶことが多いです。私は、主にエゾシカなどの野生動物のロードキルに関する調査分析や対策検討などの研究と実務を中心に、地域づくりや観光振興などの仕事にも取り組んでおります。

2. 技術士試験について

社内の先輩から受けるよう進められ、何度か受験はしていましたが、自分で合格したいと思い、本格的に勉強しながら受験をし始めたのは 3 年前からでした。一番ショックだったのは、一昨年の受験時で、筆記試験の記述では A 判定をいただいたにも関わらず、マークで不合格となったときでした。受験時はちょうど臨月を迎えており、社内の同僚にも心配していただきながら受験。そしてマークで落ちるというのは、何とも自分らしいオチでしたが、非常に悔しい思いをしました。

試験勉強は、決して優等生ではなく、育児と仕事の両立に加え、受験勉強というのは思うようには捗らず(といいわけ)、限られた時間の中で日経コンストラクションの技術士試験対策特集とウェブ上での情報が中心でした。社内の技術士の先輩たちに原稿を添削していただき、記述の仕方や留意点なども学ばせていただきました。今回、初めて筆記試験に合

格し、口答試験に臨みました。口答試験では、社内の先輩技術士の皆さんが何度も模擬面接をしてくださり、面接時の対応や聞かれること、自身の弱点など、お一人お一人の経験を元にアドバイスしていただいたことが、合格への大きな一歩となりました。

面接試験の際は緊張しながらも待合室で待機、最終チェックに余念なくいましたが、会場のどこを見渡しても男性の方ばかりで、女性の受験者の方が見つからず、まだまだ、女性の進出が少ない分野なのだなと実感しました。

3. 合格して感じたこと

合格して一番の収穫は、技術士会などの技術士という国家資格を持つ方たちの世界があることを知り、実務面での資格の必要性以外にも、自身の知見や幅を広げる機会を得られたことと感じています。先日、北海道本部主催の祝賀会に参加させていただき、様々な分野の技術士の方とお知り合いになることができました。会場では、研究委員会の活動紹介とともに各委員会へのお誘いのお言葉もいただきました。社会人になって長い年月が過ぎた今、なかなか、このような機会に接することはなく、大学入学時のサークル勧誘のようなわくわくする体験でした。

4. 今後に向けて

技術士としては、まだまだ免許取り立ての若葉マークではありますが、これまでの経験や人との関わりに感謝しながら、今後も研鑽を重ね、社会に貢献していける人材に成長していきたいと思えます。

最後に、受験に際し、たくさんのご指導やご支援を頂いた会社の諸先輩たちと、受験勉強を支えていただいた家族に、この場をお借りして御礼申し上げます。大変ありがとうございました。